

リーダーの位置付け

2021・6・4 重枝 一郎

これまでのリーダーは三角形の頂点にいて、トップダウン的に物事を決めていくタイプが主流であったと思う(図1)。メンバーにとにかくわかりやすく動いてもらうには好都合だった。そして、リーダーもそういうメンバーを求めていた。一方、これからのリーダーは逆三角形の頂点にいて(図2)、メンバーが主体的に動くのを動きやすいように支えるタイプと言われる。私が考えるリーダー像もそれである。先生方にも「自己肯定感」を高めてもらい、「縁や出会いを大切にしてもらい」、キラキラしてほしい。そうしたら、生徒もキラキラしてくる。自信をもった先生方の顔は、生徒にプライドと安心感を与える。

ちなみに、4月にあった「中高の保護者会」において、「これまでの進路指導とこれからの進路指導」の話をした。ここでも三角形、逆三角形で話した。(図①②)

また、学院全体のリーダーシップもそうであってほしいと願う。学院としては、三角形で、中高は逆三角形なら、私は尖った頂点に挟まれ、息ができなくなるからである(笑)。学院としても、私たちを支えてくれたらと思う。

そして、このことはお互い様の世界である。私も時間のある時は、学長の大学の広報活動に協力している。これまでの出会いの中で、他校の高校の先生方とのつながりは私のほうがあったりする。経験上、リーダーに挨拶することは礼儀として大切だが、生徒と直接的に話をする3学年の担任等の先生方と話さないと実質的な波及効果はない。そして、系列大学のよさをアピールすることは、中高にとっても大きな広報になると考えているからである。これも大切な高大連携だと思う。後日みんなで行く「看護大学見学」もまた背景には高大連携がある。ポジティブに「よろしく!!」と攻めていきたい。先生方の貴重な時間であるとわかっているが、参加の協力をお願いしたい。

